

公式記録



第59回国民体育大会 サッカー競技 (少年男子) 3位決定戦【Y-31】

日時	2004年9月14日 10:00		試合形式	70分 延長20分(V)		会場名	埼玉スタジアム2002 第2グラウンド, 埼玉県							
天気	晴		気温	33		湿度	63%		風	弱		ピッチ状態	観衆数	
マッチコミッショナー	大倉 健史		副審 1	山口 博司		第4の審判員	鳥越 明弘		芝	全面良芝		1,300人		
主審	武田 進		副審 2	佐藤 秀明		記録担当	浅倉 直樹		表面	乾燥				

埼玉県(少年男子)	4	2	前半	1	3	石川県(少年男子)
		2	後半	2		

交代 No.	OUT時間	シュート			得点	選手名	番号	位置	位置	番号	選手名	得点	シュート			交代 OUT時間 No.
		後	前	計									計	前	後	
				0	大橋 基史 (2年)	12	GK	GK	12	細川 敬二 (2年)	0					
			1	1	鈴木 貴久 (3年)	2	DF	DF	2	新田 義恭 (3年)	0					
		1	1	2	1	福田 俊介 (3年)	5	DF	DF	3	込山 和樹 (3年)	0				
				0	堤 俊輔 (2年)	6	DF	DF	4	作田 裕次 (2年)	0					
31分				0	室山 勇太 (3年)	16	DF	DF	5	清水 孝太 (2年)	1	1	1			
		1		1	大山 俊輔 (3年) (C)	7	MF	MF	6	大畑 将徹 (2年)	0					
54分			2	2	荒木 宏光 (3年)	10	MF	MF	7	出村 健次 (2年)	1		1	55分		
63分			1	1	島田 祐輝 (3年)	11	MF	MF	8	田宮 裕之 (3年)	1		1			
				0	荒井 達至 (3年)	15	MF	MF	10	本田 圭祐 (3年) (C)	1	1				
		3	1	4	2	河原 和寿 (3年)	9	FW	FW	11	橋本 晃司 (3年)	2	2	HT		
		2	2	4	1	杉本 裕之 (3年)	13	FW	FW	16	綿谷 諒 (2年)	3	3			
16				0	押野 佑季 (3年)	1	GK	GK	1	坂村 駿 (3年)						
					星野 崇史 (3年)	3	DF	DF	13	川崎 真宏 (3年)						
					志田 亮輔 (3年)	4	MF	DF	15	梅木 建詞 (3年)						
11				0	竹内 聡 (3年)	8	MF	MF	14	西 和也 (3年)	0			7		
10				0	西澤 代志也 (2年)	14	MF	FW	9	小泉 一泰 (2年)	2	2	2	11		

警告・退場		監督		監督		警告・退場	
19分	警	16	室山 勇太	ラフ	守屋 保	瀬戸 博邦	
							31分
							警
							11
							橋本 晃司
							遅延行為
							34分
							警
							7
							出村 健次
							遅延行為
							46分
							警
							10
							本田 圭祐
							反スポーツ

得点時間	得点チーム	No.	得点者	スコア	得点経過	記録例	~:ドリブル	:ゴロパス	浮き球パス	x:混戦	S:シュート	H:ヘディング
7分	埼玉県	5	福田 俊介	1-0	左-2	直接FK	7		中央-1	5	右足S	
20分	石川県	5	清水 孝太	1-1		PK	5	右足S				
25分	埼玉県	9	河原 和寿	2-1	右-2		13		中央-2	7	中央-1	9 右足S
41分	埼玉県	13	杉本 裕之	3-1	中央-2		7		10			
43分	石川県	9	小泉 一泰	3-2	左-3	知-イ	3		左-2	相手FP	ミス	中央-2 9 ~
					中央-1	右足S						
47分	埼玉県	9	河原 和寿	4-2	右CK		11		中央-1	9	HS	
69分	石川県	9	小泉 一泰	4-3	右-3		4		中央-1	16	~	右足S 相手GK クリア 9
					右足S							

P K 戦の経過	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
----------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----

[試合時間] 前半36:33(1:33)、後半38:27(3:27)、試合所要時間 1:25:30

[戦評] 記入者: 平岡和徳 所属: 大津高校(熊本県)
 両チームとも今大会一貫してきた4-4-2のシステムでスタート。埼玉は 大山、石川は 本田を起点にゲームはコントロールされる。連戦の疲れを見せず前半から攻守の切り替えの早いスリリングな展開となる。一進一退の攻防の中、埼玉は の精度の高いプレスキックでセットプレイの好機を生かし 福田が押し込み先制する。一方石川は飲水直後にロングパスから裏へ抜け出した が倒されPK。これを 清水が冷静に決めて同点とする。その後埼玉は、 のホットラインから2度目のネットを揺らしつきはなす。後半に入り埼玉は、勝利への意識が全員に浸透し追加点を重ね、石川の反撃を押しさえ、3位を獲得した。大会を通して常に全力プレーを見せ、たくさん観客に感動を与えた地元イレブンに心からの拍手を送りたい。